



少しシャイなビラーンの子ども（ツガルで）



2013年1月25日発行

NPO 法人ビラーンの医療と自立を支える会
 (英文名略称・HANDS)
 本部：〒227-0033 横浜市青葉区鴨志田町 516-11
 TEL & FAX:045-500-9151
 E-mail: hands-mindanao@nifty.com
<http://homepage3.nifty.com/hands/>
 郵便振替口座 00210-5-72693
 (加入者名) ビラーンの医療と自立を支える会

カトリック・ミッションをパートナーとすること CMIP との協働 18 年目を迎えるにあたって

「クリスマス需要を見込んだスフの初出荷は、期待通りにいかなかった」年明けのエドウィン神父のメールは珍しく元気がありませんでした。今年5月で4年の任期を終える神父。前職は修道院管区長と40代で重責についていただけに、CMIPディレクターとしても精力的に働き、このプランテーションに土地を貸さずに、確実に収入を上げるためのゴムノキ育成と高原野菜事業では、現場で住民と汗を流すとともに、その詳細を定期的にメールしてくれるなど、安心して事業管理をお任せできました。

それまで4人だったCMIP担当神父を6人に増やし、要請があれば、どんな山奥にも神父を派遣するなど宣教活動にも熱心でした。11月訪問時に「また新しい村が加わった」と、初めて聞く村の名前を挙げました。

反開発の立場で環境保全や収入向上事業に、強力なリーダーシップを発揮されただけに、離任後の事業の継続性が心配です。各村に信徒代表や伝統的首長など協力者が数人いるものの住民組織の育成は遅れています。

COWHED、PIHS、PFPとパートナーが増えた今も、皆様の支援金の多くを託しているCMIPとの関係を、ディレクター交代を控えるこの時期に振り返ってみました。

< 始まり >

HANDSのCMIPとのパートナー関係の始まりは、1996年4月にさかのぼります。マトトン山の裾野に広がるパイナップル農園の真ん中で、土地を返せと抗議する住民との出会い、銅山会社から土地譲渡の署名を迫られていたサムラング訪問。

これら17年前のビラーン民族との出会いは、環境保全や人権擁護の活動をしていたビラーン・カトリック・ミッション（現CMIPの前身）のビトイ神父、及び、ジェネラルサントスの教会の正義と平和委員会メンバーの案内によるものでした。

< 支援地域は50以上に >

CMIPの布教地域拡大とともに、HANDSの支援も、行政の医療や教育サービスが届かない辺境へと広がりました。支援に終わりが見えない反面、「一番必要なところに教育を、医療を」と望む皆様の支援金をCMIPは確実に生かしてくれています。

< ミッションと働く上での課題 >

先住民族支援のNGOであるとともに教会組織のCMIPは、HANDSを他の教会協力者に対するのと同じく、ミッション活動への協力者とみなす傾向があります。教会協力者は、領収書や詳細な報告を要求しませんが、それらを求めるHANDSに慣れてもらうのに時間がかかりました。

カレッジ卒業の元奨学生が、村のために働こうとした時、それが教会傘下でない活動だったため、神父たちから歓迎されなかったケースもありました。修道会というヒエラルキー社会で、ディレクター間の引き継ぎが十分でないのも、長くモニターが必要な環境保全事業等では課題となっています。

< 覚書の締結 >

前号で紹介の新たにパートナーになるSCMSIとは、3年程度の支援に関する覚書締結を予定しています。CMIPとも、従来の信頼関係だけに頼らず、報告義務、達成目標などを明記した文書を作成して、今後も先住民族支援に対する皆様のご協力が十分生かせるよう協働していきたいと思ひます。（山崎）